

学期 / Semester	2020年度 / Academic Year 1クォーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Course duration	2020/04/08 ~ 2020/06/04		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20200587049901	科目番号 / Course code	05870499
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 15321_005		
授業科目名 / Course title	a22身体関係論 / Embodied Relating		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	北村 史 / Kitamura Fumito		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟11 / RoomA-11		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kitamura@nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	文教キャンパスA&TLab爽創館 オープンラボ1		
担当教員TEL/Tel	095-819-2455		
担当教員オフィスアワー/Office hours	平日16:00~17:00		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	我々の日常的なコミュニケーション活動において、言語的な意味内容は重要です。しかしながら、我々が他者のことを「わかる」とき、利用しているのは単に言語的な情報だけでなく、相手の表情やジェスチャーや姿勢などからも豊かな意味をもってメッセージが伝わっていると考えられます。そういった身体の機能の重要性の一方で、我々は身体の使い方を学ぶことは少なく、無意識のうちに慣れてくせのようになった身体の使い方に気づくことすらあまりありません。本授業では、実際に身体を動かすワークを通じて、自分自身の身体感覚を意識し、コミュニケーションにおける身体の役割に気づき、自分自身のコミュニケーションスタイルを意識して、効果的なコミュニケーションをできるようになることを目指します。また、「わかる」ということにおける身体の機能に注目したワークショップを履修者全員で企画実施し、実践的に身体を活用した学びに取り組みます。		
授業到達目標/Course goals	a. 自分のコミュニケーションスタイルに気づく (2, 5) b. 自分の身体的体験を言葉にできる (5, 10) c. 他者との関わりにおいて、自分らしい自己表現を効果的に行うことができる (8, 9, 10) d. 非言語行動、身体化された知識、感覚の共有など、授業で紹介された考え方について整理して説明できる (C) ()内の数字は全学モジュール目標の番号と対応 (『全学モジュールガイドブック』を参照)		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	(身体体験ログ5点×7回) + (予習復習課題6点×4回) + (プレゼンテーション10点) + (体験学習やグループワークへの取り組み11点) + (レポート課題20点) = 100点満点のうち、60点以上を合格とします。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review	毎回の授業後に予習復習のための課題を知らせます。課題には以下のものが含まれます。 体感ログの作成 資料を閲覧視聴した後の掲示板ディスカッション グループでの準備活動		
キーワード / Keywords	からだ言葉、ボディ・スキーマ、身体化、非言語行動、ワークショップ		

教科書・教材・参考書/Materials	購入指定する教科書はありません。以下の文献を主な参考書とします。 生田久美子 「わざ言語ー感覚の共有を通しての『学び』へ」 慶應義塾大学出版会 2011 D. マクニール 「心理言語学『ことばと心』への新しいアプローチ」 サイエンス社 1990 鴻上尚史 「発声と身体のレッスン」 ちくま文庫 2012 佐々木正人 「からだ：認識の原点」 東京大学出版会 2008 鯨岡峻 「ひとがひとをわかるということ」 ミネルヴァ書房 2006 得丸さと子 「TAEによる文章表現ワークブック」2008 苅宿俊文、佐伯胖、高木光太郎 「まなびほぐしのデザイン」 東京大学出版会 2012	
受講要件（履修条件）/Prerequisites	<ul style="list-style-type: none"> ・一つひとつの体験を大事に、集中して授業に参加すること ・うまくできなくても、やってみようとする ・自らの知性を発揮することを楽しんで、建設的な学び合いができること ・授業内外でテーマについて考え、学ぶ（予習、復習、課題、グループワーク）ために時間をつかうこと（週平均3時間程度） 	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp	
備考 (URL) /Remarks (URL)		
学生へのメッセージ/Message for students	いろいろな姿勢や動きをする体験学習が多いので、全回の授業に、からだを動かしても気にならない服装で参加してください。からだを動かさづらい服装やスカート等は避けてください。また、本授業では授業の成果を検討して授業内容の改善につなげるために、調査に協力してもらうことがあります。協力するかどうかはその都度各自で選択できます。	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N)	N	
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) /Name / Details of practical experience / Contents of course		
授業計画詳細 / Course Schedule		
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 / Lesson method
第1回	オリエンテーション アイスブレイク からだ言葉	A B
第2回	【ボディ・ワーク】自分の身体とのかかわり(1) TAEによる自己表現の導入	A C
第3回	ボディ・マップ ボディ・スキーマ ペリパーソナルスペース	A
第4回	【ボディ・ワーク】自分の身体とのかかわり(2)	A C
第5回	感覚の共有とまなび(1)	A
第6回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(1)	A C
第7回	共感とまなび(2)	A
第8回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(2)	A C
第9回	ワークショップの構想(1)(グループワーク)	B D
第10回	ワークショップの構想(2)(グループワーク)	B D
第11回	ワークショップ案のコンペ(プレゼンテーション)	B C
第12回	ワークショップの準備	B D
第13回	ワークショップ実施(1)	A B
第14回	ワークショップ実施(2) ワークショップのふりかえり	A B
第15回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(3) 授業のまとめ	A B

学期 / Semester	2020年度 / Academic Year 2クオ ーター / Second Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Course duration	2020/06/11 ~ 2020/08/06		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20200587049902	科目番号 / Course code	05870499
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 15321_005		
授業科目名 / Course title	a22身体関係論 / Embodied Relating		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	北村 史 / Kitamura Fumito		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟11 / RoomA-11		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kitamura@nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	文教キャンパスA&TLab爽創館 オープンラボ1		
担当教員TEL/Tel	095-819-2455		
担当教員オフィスアワー/Office hours	平日16:00~17:00		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	我々の日常的なコミュニケーション活動において、言語的な意味内容は重要です。しかしながら、我々が他者のことを「わかる」とき、利用しているのは単に言語的な情報だけでなく、相手の表情やジェスチャーや姿勢などからも豊かな意味をもってメッセージが伝わっていると考えられます。そういった身体の機能の重要性の一方で、我々は身体の使い方を学ぶことは少なく、無意識のうちに慣れてくせのようになった身体の使い方に気づくことすらあまりありません。本授業では、実際に身体を動かすワークを通じて、自分自身の身体感覚を意識し、コミュニケーションにおける身体の役割に気づき、自分自身のコミュニケーションスタイルを意識して、効果的なコミュニケーションをできるようになることを目指します。また、「わかる」ということにおける身体の機能に注目したワークショップを履修者全員で企画実施し、実践的に身体を活用した学びに取り組みます。		
授業到達目標/Course goals	a. 自分のコミュニケーションスタイルに気づく (2, 5) b. 自分の身体的体験を言葉にできる (5, 10) c. 他者との関わりにおいて、自分らしい自己表現を効果的に行うことができる (8, 9, 10) d. 非言語行動、身体化された知識、感覚の共有など、授業で紹介された考え方について整理して説明できる (C) ()内の数字は全学モジュール目標の番号と対応 (『全学モジュールガイドブック』を参照)		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Method of evaluation	(身体体験ログ5点×7回) + (予習復習課題6点×4回) + (プレゼンテーション10点) + (体験学習やグループワークへの取り組み11点) + (レポート課題20点) = 100点満点のうち、60点以上を合格とします。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review	毎回の授業後に予習復習のための課題を知らせます。課題には以下のものが含まれます。 体感ログの作成 資料を閲覧視聴した後の掲示板ディスカッション グループでの準備活動		
キーワード / Keywords	からだ言葉、ボディ・スキーマ、身体化、非言語行動、ワークショップ		

教科書・教材・参考書/Materials	購入指定する教科書はありません。以下の文献を主な参考書とします。 生田久美子 「わざ言語ー感覚の共有を通しての『学び』へ」 慶應義塾大学出版会 2011 D. マクニール 「心理言語学『ことばと心』への新しいアプローチ」 サイエンス社 1990 鴻上尚史 「発声と身体のレッスン」 ちくま文庫 2012 佐々木正人 「からだ：認識の原点」 東京大学出版会 2008 鯨岡峻 「ひとがひとをわかるということ」 ミネルヴァ書房 2006 得丸さと子 「TAEによる文章表現ワークブック」2008 荻宿俊文、佐伯胖、高木光太郎 「まなびほぐしのデザイン」 東京大学出版会 2012	
受講要件（履修条件）/Prerequisites	<ul style="list-style-type: none"> ・一つひとつの体験を大事に、集中して授業に参加すること ・うまくできなくても、やってみようとする ・自らの知性を発揮することを楽しんで、建設的な学び合いができること ・授業内外でテーマについて考え、学ぶ（予習、復習、課題、グループワーク）ために時間をつかうこと（週平均3時間程度） 	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp	
備考 (URL) /Remarks (URL)		
学生へのメッセージ/Message for students	いろいろな姿勢や動きをする体験学習が多いので、全回の授業に、からだを動かしても気にならない服装で参加してください。からだを動かさづらい服装やスカート等は避けてください。また、本授業では授業の成果を検討して授業内容の改善につなげるために、調査に協力してもらうことがあります。協力するかどうかはその都度各自で選択できます。	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N)	N	
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) /Name / Details of practical experience / Contents of course		
授業計画詳細 / Course Schedule		
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 / Lesson method
第1回	オリエンテーション アイスブレイク からだ言葉	A B
第2回	【ボディ・ワーク】自分の身体とのかかわり(1) TAEによる自己表現の導入	A C
第3回	ボディ・マップ ボディ・スキーマ ペリパーソナルスペース	A
第4回	【ボディ・ワーク】自分の身体とのかかわり(2)	A C
第5回	感覚の共有とまなび(1)	A
第6回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(1)	A C
第7回	共感とまなび(2)	A
第8回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(2)	A C
第9回	ワークショップの構想(1)(グループワーク)	B D
第10回	ワークショップの構想(2)(グループワーク)	B D
第11回	ワークショップ案のコンペ(プレゼンテーション)	B C
第12回	ワークショップの準備	B D
第13回	ワークショップ実施(1)	A B
第14回	ワークショップ実施(2) ワークショップのふりかえり	A B
第15回	【ボディ・ワーク】他者とのかかわり(3) 授業のまとめ	A B

学期 / Semester	2020年度 / Academic Year 3クオ ーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Course duration	2020/09/28 ~ 2020/11/19		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0 / 2.0
時間割コード / Time schedule code	20200587061701	科目番号 / Course code	05870617
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 15591_005		
授業科目名 / Course title	a22他者理解とバイアス / Unconscious Bias Toward the Others		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	中島 ゆり / Nakajima Yuri, 北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	中島 ゆり / Nakajima Yuri		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	中島 ゆり / Nakajima Yuri		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟22 / RoomA-22		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	nakajimayuri nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	文教キャンパス 美術技術棟 2 0 3		
担当教員TEL/Tel	095-819-2908 (内線2908)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	授業後、またはメールにてアポイントをとること。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	人は他者を判断するとき、「無意識のバイアス」に依拠しがちである。対人関係を築く上で自分自身がどのようなバイアスを持っているか、それによってどのような問題が生じる可能性があるか、なぜそのようなバイアスを持ってしまうのかについて学ぶ。		
授業到達目標/Course goals	1. 「無意識のバイアス」が何によって生じるのか、どのような問題が生じる可能性があるのか、について説明することができる。 2. 自らのバイアスと、それによって生じる可能性のある問題を理解し、それをできるだけなくすように努力する態度を身につける。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	小課題 30% 最終レポート 70%		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) /Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	インタビューデータの文字起こしを授業外で行います。 グループ発表の準備も授業外で行います。		
キーワード/Keywords	無意識のバイアス、社会階層・人種・ジェンダー、社会学		
教科書・教材・参考書/Materials	資料はこちらで準備しますので、購入する教科書等はありません。 参考文献については授業中に提示します。		
受講要件 (履修条件) /Prerequisites	人に対するインタビューを実施します。また、グループで活動します。		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」 (障がい学生支援室) にご相談下さい。 アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) /Remarks (URL)			
学生へのメッセージ/Message for students			

実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N)	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づ く教育内容 (実務経験のある教員による授業科 目のみ使用) / Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
43741	自分のバイアスを知る
43748	さまざまなバイアス(1)
43748	さまざまなバイアス(2)
43755	他者を知る方法(1)
43755	他者を知る方法(2)
43762	正しく知る(1)
43762	正しく知る(2)
43769	話を聞く(1)
43769	話を聞く(2)
43776	インタビューデータの分析(1)
43776	インタビューデータの分析(2)
43783	グループ内での分析(1)
43783	グループ内での分析(2)
43790	全体発表(1)
43790	全体発表(2)

学期 / Semester	2020年度 / Academic Year 4クオ ーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Course duration	2020/11/25 ~ 2021/01/28		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0 / 2.0
時間割コード / Time schedule code	20200587067701	科目番号 / Course code	05870677
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 16441_005		
授業科目名 / Course title	a22対人関係を考える / Workshops on Interpersonal Relationship		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	岡田 佳子 / Okada Yoshiko		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	岡田 佳子 / Okada Yoshiko		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	岡田 佳子 / Okada Yoshiko		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟32 / RoomA-32		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部・多文化社会学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	okadayo nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	共用校舎2 (多文化社会学部3号館) 102		
担当教員TEL/Tel	095-819-2091		
担当教員オフィスアワー/Office hours	何か質問や相談したいことがあったら遠慮なく来てください。 但し、LACS経由ではなく、必ずメールにて面談の予約をしてください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	<p>私達はこの世に生まれてから死ぬまで、必ず誰かとの対人関係の中で生きています。本科目では、この対人関係の中にみられる諸問題について客観的・分析的に考え、その後自分達で何かしらの解決策を探索していくことを目指します。</p> <p>そのために本科目ではまず、様々な対人関係の中にある諸問題について、教育学・社会学の観点から客観的・分析的に考えるための視点を養います。次に、それらの視点に基づき、今後実際の諸問題にどのように対応していくのかについてグループワークやディスカッションの中で自分達なりの答えを考え出していくことを目指します。</p> <p>本科目は大学や社会でのコミュニケーションに必要とされる思考力・分析力・コミュニケーション力など、様々な基礎能力を育成することを目指しています。そのため、この科目では皆さんの積極的な参加が不可欠です。授業内では他者とのコミュニケーションや自分の意見を持つことが強く求められます。受動的に授業を受けたい人には不向きな授業であるため、その点に留意して受講してください。</p>		
授業到達目標/Course goals	<ul style="list-style-type: none"> ・対人関係にみられる諸問題を教育学・社会学の用語を用いて分析的に説明することができる ・自分と異なる意見を持つ他者と話し合いながら問題解決に取り組むことができる ・人間関係に関する諸問題について自分の考えを述べるることができる ・他者の多様な価値観について受容的に関わるることができる 		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	授業内ワーク及び事前ワーク40%、授業外課題60% 全課題の総計を100点満点に換算し、60点以上を合格とします。 但し、(1)全体の2/3以上の出席及び、(2)ワークと課題を全体の2/3以上提出していることを「成績評価の最低条件」とします。(この条件を満たしていない学生は自動的に単位が取得できないこととなります。また、これらは合格の最低条件ではありません。採点結果によっては不合格になる可能性も十分にありますのでくれぐれも注意してください) 本科目では、最終試験は実施しません。その代わりに、授業回数数が16回に設定されています。注意して受講すること。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) /Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	本科目では、毎回課題を提出してもらいます。その中に授業の予習・復習の内容が含まれているので、授業に出席する際は必ず課題を提出したうえで臨むこと。		

キーワード/Keywords	社会化、生徒文化、社会階層、文化資本、再生産、ジェンダー
教科書・教材・参考書/Materials	教科書は指定しません。参考資料等は授業の中で随時配付します。
受講要件（履修条件）/Prerequisites	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内外の課題やグループワークに積極的に取り組むこと。 ・授業進行やグループワークの妨げとなるので特段の理由がない限りは遅刻厳禁です。 ・授業中の私語および携帯電話の使用は禁止します。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	<p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。</p> <p>アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp</p>
備考（URL）/Remarks (URL)	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業では座席指定を行います。座席の指示は授業開始時に行うため、遅刻しないこと。 ・授業内でグループワークを頻繁に行うため、特別の理由がない限りは遅刻厳禁とします。それに留意したうえで受講すること。
学生へのメッセージ/Message for students	この科目では自分の経験や社会的な問題について客観的・分析的に捉え直す視点を培い、考える力をつけていくことをねらいとしています。社会の中にある様々な対人関係の問題・課題について一緒にじっくり考えていきましょう。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N)	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) / Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	オリエンテーション・学校の人間関係を考える(1)
第2回	学校の人間関係を考える(2)
第3回	学校の人間関係を考える(3)
第4回	学校の人間関係を考える(4)
第5回	社会格差を考える(1)
第6回	社会格差を考える(2)
第7回	社会格差を考える(3)
第8回	社会格差を考える(4)
第9回	人の多様性について考える(1)
第10回	人の多様性について考える(2)
第11回	人の多様性について考える(3)
第12回	人の多様性について考える(4)
第13回	結婚関係を考える(1)
第14回	結婚関係を考える(2)
第15回	結婚関係を考える(3)
第16回	結婚関係を考える(4)および授業まとめ